



福岡医発第1112号(地)

平成14年9月13日



各 医 師 会 長 殿

福岡県医師会

会長 関 原 敬 太 郎



「C型肝炎Q&A(一般的なQ&A)」(改訂Ⅳ版)の送付について

初秋の候 貴職益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、「C型肝炎Q&A(一般的なQ&A)」につきましては、福岡医発第121号(地)(平成13年4月20日)をもってお送りし、さらに改訂Ⅱ版については福岡医発第871号(地)(平成13年8月31日付)、改訂Ⅲ版については福岡医発第2041号(地)(平成14年3月15日)をもってそれぞれお送りしました。

今般、平成14年2月より、C型肝炎の治療薬であるインターフェロン製剤について、保険適用上及び診療報酬請求上の取り扱いが変更となりましたことから、内容が一部改訂され、別添のとおり日本医師会感染症危機管理対策室長より届きましたのでお送り致します。

つきましては、貴職におかれましても、本件についてご了知いただき、よろしくお願い申し上げます。

なお、本Q&Aは日本医師会のホームページ(<http://www.med.or.jp/kansen/>)に掲載されますことを申し添えます。

(地Ⅲ 1 1 8)

平成 1 4 年 9 月 2 日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

雪 下 國 雄

「C型肝炎Q&A（一般的なQ&A）」（改訂Ⅳ版）の送付について

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、「C型肝炎Q&A（一般的なQ&A）」につきましては、平成13年4月12日付（地Ⅲ 8）をもってお送りし、さらに改訂Ⅱ版については平成13年8月23日付（地Ⅲ 8 4）、改訂Ⅲ版については平成14年3月4日付（地Ⅲ 2 2 5）をもってそれぞれお送りしました。

平成14年2月より、C型肝炎の治療薬であるインターフェロン製剤について、保険適用上及び診療報酬請求上の取り扱いが変更となり、これを受けて内容の一部改訂が行われました。主な変更点は、別添の新旧対照表に示す通りであります。

つきましては、本Q&Aをお送りいたしますので、貴職におかれましても、本件についてご了知いただき、貴会管下郡市区医師会等への周知方よろしくご高配の程お願い申し上げます。

なお、本Q&Aは日本医師会のホームページ（<http://www.med.or.jp/kansen/>）に掲載いたしますことを申し添えます。

		原版	改訂版
表題		改訂Ⅲ版	改訂Ⅳ版
冒頭			平成14年2月より、C型肝炎の治療薬であるインターフェロン製剤について、保険適用上及び診療報酬請求上の取り扱いが変更となりました。これを受けて内容の一部改訂を行いました。 今回の改訂でも、財団法人ウイルス肝炎研究財団に所属する肝炎の専門家、社団法人日本医師会感染症危機管理対策室などのご協力をいただきながら作成しました。 今後も、関係機関との連携を保ちながら、国民への正確で新しい情報提供を行えるよう努めてまいりたいと考えています。 平成14年8月
簡Q7	C型肝炎の治療法は？	C型肝炎の治療薬には、インターフェロンと呼ばれる薬があります。 インターフェロンは注射で投与します。<u>現在、インターフェロンの標準的投与期間は6ヶ月とされています。</u>効果は、感染している人のウイルスの遺伝子型や量によって、また、状態や肝炎の進展度等によって異なり、また、副作用があることも知られています。専門の医師の診断にもとづいて適切な治療を行う必要があります。 平成13年11月にインターフェロンとの併用療法において効果があるリバビリンという薬が認可されました。ただ、この薬についても、副作用があり、効果の程度も感染している人の状態によって異なるので、専門の医師の判断に基づいた適切な治療が必要です。	C型肝炎の治療薬には、インターフェロンと呼ばれる薬があります。 インターフェロンは注射で投与します。効果は、感染している人のウイルスの遺伝子型や量によって、また、状態や肝炎の進展度等によって異なり、また、副作用があることも知られています。専門の医師の診断にもとづいて適切な治療を行う必要があります。 平成13年11月にインターフェロンとの併用療法において効果があるリバビリンという薬が認可されました。ただ、この薬についても、副作用があり、効果の程度も感染している人の状態によって異なるので、専門の医師の判断に基づいた適切な治療が必要です。

詳Q31	C型肝炎ウイルスに感染している人の治療には専門医への相談が必要ですか？	C型肝炎ウイルスに感染している人で肝酵素(ALT、AST等)値が上昇している場合、更なる精密検査、治療法選択の相談等のために専門医を受診することが必要です。C型肝炎ウイルスに感染している人の治療を行う際には、C型肝炎治療に関する最新の知識、経験によることが望ましいからです。	C型肝炎ウイルスに感染している人で肝酵素(ALT、AST等)値が上昇している場合、更なる精密検査、治療法選択の相談等のために専門医を受診することが必要です。C型肝炎ウイルスに感染している人の治療を行う際には、C型肝炎治療に関する最新の知識、経験によることが望ましいからです。 日本肝臓学会では、ブロックごとに肝臓専門医に関する情報をホームページ(http://www.ish.or.jp/)上で公開しています。
詳Q32	C型肝炎はどのように治療しますか？	C型肝炎の患者の治療は、病気の進行の状態によって方法や効果などが違います。インターフェロンや、リバビリンという抗ウイルス剤を用いる場合、これらの薬による効果は、ウイルスの遺伝子型や量によって差があり、副作用の問題もあります。そこで、治療薬や治療方針の選択については専門の医師による判断が必要です。 <u>インターフェロンについては、効果があつた場合には、繰り返し治療を行うことも認められています。</u> ただし、インターフェロンによりC型肝炎ウイルスの排除(治癒)に成功するのは、全体では100人中約30人、リバビリンを併用した場合でも、それをやや上回る程度と考えられます。 インターフェロンやリバビリンでウイルスを排除できなかった場合でも、肝酵素(ALT、AST等)値が正常範囲を超えて上昇している場合には肝臓を庇護(ひご)する治療を行い、肝臓の細胞が損傷されることを抑えることで、肝硬変や肝がんになることを予防したり、遅らせたりする治療が行われます。	C型肝炎の患者の治療は、病気の進行の状態によって方法や効果などが違います。インターフェロンや、リバビリンという抗ウイルス剤を用いる場合、これらの薬による効果は、ウイルスの遺伝子型や量によって差があり、副作用の問題もあります。そこで、治療薬や治療方針の選択については専門の医師による判断が必要です。インターフェロンによりC型肝炎ウイルスの排除(治癒)に成功するのは、全体では100人中約30人、リバビリンを併用した場合でも、それをやや上回る程度と考えられます。 インターフェロンやリバビリンでウイルスを排除できなかった場合でも、肝酵素(ALT、AST等)値が正常範囲を超えて上昇している場合には肝臓を庇護(ひご)する治療を行い、肝臓の細胞が損傷されることを抑えることで、肝硬変や肝がんになることを予防したり、遅らせたりする治療が行われます。

詳Q46	「老人保健法による肝炎ウイルス検査」について具体的に教えてください。	老人保健法による基本健康診査(住民検診)を受けることのできる方が対象となります。 肝炎ウイルス検査は、健康診査の対象者のうち、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の節目の年齢に該当する方と、それ以外の年齢の方で過去に肝機能異常を指摘されたことがある方、及び、基本健康診査でGPT値により要指導と判定された方が対象です。 検査は、対象となった方の希望によりおこないます。 なお、実施方法等の詳細につきましては、お住まいの市町村の老人保健事業担当課までお問い合わせください。	老人保健法による基本健康診査(住民検診)を受けることのできる方が対象となります。 肝炎ウイルス検査は、健康診査の対象者のうち、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の節目の年齢に該当する方と、それ以外の年齢の方で過去に肝機能異常を指摘されたことがある方、<u>広範な外科的処置を受けたことのある方又は妊娠・分娩時に多量に出血したことのある方であって定期的に肝機能検査を受けていない方</u>、及び、基本健康診査でALT(GPT)値により要指導と判定された方が対象です。 検査は、対象となった方の希望によりおこないます。 なお、実施方法等の詳細につきましては、お住まいの市町村の老人保健事業担当課までお問い合わせください。
詳Q45.	C型肝炎の検査を受ける方法には、具体的にどのようなものがあるのですか？	C型肝炎の診断のための血液検査はほとんどの医療機関で行うことができますが、特に肝炎が疑われる全身倦怠感や食欲不振、悪気・嘔吐あるいは黄疸といった症状がある場合には、早めに受診されることをお勧めします。なお、一般的には医療保険については、検査を希望される医療機関にお問い合わせください。	C型肝炎の診断のための血液検査はほとんどの医療機関で行うことができますが、特に肝炎が疑われる全身倦怠感や食欲不振、悪気・嘔吐あるいは黄疸といった症状がある場合には、早めに受診されることをお勧めします。なお、一般的には医療保険については、検査を希望される医療機関にお問い合わせください。

		また、平成13年3月に提出された「肝炎対策に関する有識者会議」報告書において、現行の健康診断等の仕組みを活用したスクリーニング検査の検討の必要性が指摘され、これを受けて厚生労働省では「C型肝炎等緊急総合対策」の一環として、平成14年4月より、以下の3通りの方法でC型肝炎ウイルス検査を実施することになります。	また、平成13年3月に提出された「肝炎対策に関する有識者会議」報告書において、現行の健康診断等の仕組みを活用したスクリーニング検査の検討の必要性が指摘され、これを受けて厚生労働省では「C型肝炎等緊急総合対策」の一環として、平成14年4月より、以下の3通りの方法でC型肝炎ウイルス検査を実施しているところです。
詳Q47	「政府管掌健康保険等による肝炎ウイルス検査」について具体的に教えてください。	政府管掌健康保険による生活習慣病予防健診を受けることのできる方が対象となります。 肝炎ウイルス検査は、生活習慣病予防健診の対象者のうち、35歳、40歳、以降5歳間隔の節目の年齢に該当する方と、それ以外の年齢の方で過去に肝機能異常を指摘されたことがある方、及び、生活習慣病予防健診でGPT値が一定値を超えた方が対象です。 検査は、対象となった方の希望によりおこないます。なお、船員保険の生活習慣病予防健診を受ける方も、肝炎検査が受けられます。実施方法等の詳細につきましては、お勤めの会社住所を管轄する社会保険事務局まで お問い合わせください。	政府管掌健康保険による生活習慣病予防健診を受けることのできる方が対象となります。 肝炎ウイルス検査は、生活習慣病予防健診の対象者のうち、35歳、40歳、以降5歳間隔の節目の年齢に該当する方と、それ以外の年齢の方で、過去に大きな手術を受けたことのある又は分娩時に多量に出血した過去のある方、過去に肝機能異常を指摘されたことがある方、及び、生活習慣病予防健診でALT(GPT)値が一定値を超えた方が対象です。 検査は、対象となった方の希望によりおこないます。なお、船員保険の生活習慣病予防健診を受ける方も、肝炎検査が受けられます。実施方法等の詳細につきましては、お勤めの会社住所を管轄する社会保険事務局まで お問い合わせください。

詳Q48	「保健所等における肝炎ウイルス検査」について具体的に教えてください。	現在、保健所等にて、<u>性感染症に対する特定感染症予防事業</u>として、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖形コンジローム、梅毒、淋菌感染症の5疾患の検査、及び、HIVについての相談・検査が実施されています。これらとあわせて、40歳以上の希望者に対して、HBs抗原検査、HCV抗体検査を実施するための補助をする制度を構築しますので、実施方法等の詳細につきましては、お住まいの地域を管轄する保健所にお問い合わせ下さい。	現在、保健所等にて、<u>特定感染症検査等事業</u>として、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖形コンジローム、梅毒、淋菌感染症の5疾患の検査、及び、HIVについての相談・検査が実施されています。これらの検査とあわせて、40歳以上の希望者に対して、HBs抗原検査、HCV抗体検査を実施するための補助をする制度を構築していますので、実施方法等の詳細につきましては、お住まいの地域を管轄する保健所にお問い合わせ下さい。
詳Q49	C型肝炎について国が講じている施策を教えてください。		C型肝炎をはじめとするウイルス性肝炎の問題は、国民の健康に関わる重要な問題であり、肝炎対策に関する有識者会議報告書においても、「国民が、自身のC型肝炎ウイルス感染の状況を認識し、その結果に基づき必要な診療を受けることが重要」とされています。 このため、厚生労働省では、平成14年度から「C型肝炎等緊急総合対策」として、別表の通り、 ① 広報の実施や継続的な情報提供などの啓発普及 ② 現行の健康診査体制を活用したウイルス検査の実施 ③ 「肝炎等克服緊急対策研究事業」の創設など、治療方法等の研究開発の推進 ④ 標準的治療法の開発及び普及など治療体制の整備